

宍道湖でゴミ約十トン 美しい中海・宍道湖を守る



中海・宍道湖の沿岸のゴミ拾いを行う、
中海・宍道湖一斉清掃が開催されました。

中海・宍道湖一斉清掃が六月十一日（日）に行われました。午前八時半からという早朝の中、中海・宍道湖で七千八百六十七人が参加、そのうち、宍道湖の清掃には約五千二百人が参加し、宍道湖沿岸のゴミを拾いました。収集された量は、中海・宍道湖で約十五トンにのぼり、そのうち宍道湖では約十トンでした。

収集されたゴミは、漂流していた木の枝や打ちあげられた水草などの自然由来のもの他に、釣り糸や浮きなどの釣り道具、ビニール袋やタバコの吸い殻、発泡スチロールなど、自然では分解されないものも多くありました。

中海・宍道湖は平成十七年にラムサール条約に登録され、この一斉清掃は、条約の趣旨である「環境保全」と「賢明な利用（ワイズユース）」に対する地域住民の意識の向上を目的としています。

家族連れや小・中学生、企業など、幅



● 回収されたゴミ

広い世代の人が参加しており、中海・宍道湖の自然環境を次世代に引き継ぐ第一歩だとわかりました。

清掃に参加していたみずほ銀行グループの赤沢輝さんは「八千人が一斉にゴミを拾って、観光資源でもある宍道湖がきれいになってよかった」と語りました。

（松井 萌記者）

エコタウンまっえ

全戸配布

秋号

No. 128

- 発行
2017. 10. 1
- 編集
エコタウンまっえ編集室
(松江市環境保全課)
- E-mail
k-hozen@city.matsue.lg.jp
- TEL
(0852) 55-5278
- FAX
(0852) 55-5497

環境にも心にも優しい 「薪ストーブ」



松江市の補助金を利用し導入した「薪ストーブ」を使っている荒川恭行さん（外中原町）を取材。

薪ストーブとは、薪（ブナやナラなどの落葉広葉樹を乾燥させたもの）を燃料とした暖房器具で、化石燃料や電気を使わず環境に優しいストーブです。

木を燃やすとCO2を排出するの環境に悪いと思われませんが、木は光合成によりCO2を吸収し蓄えており、「薪を燃やしてCO2を排出しても木などの植物が吸収する」という流れを繰り返すため大気中のCO2は増えないエコなエネルギーです。

きっかけは新築にあたりオール電化にしたことですが、災害などで長期間停電すると熱源が無くなり、調理や冬の暖房に困るためサブの熱源として薪ストーブの導入を設計者から勧められたそうです。「設置して三シーズンになるが、赤外線によって発生した温かさは体の芯からぽかぽかと温まり格別だ。」



● 愛用の薪ストーブと荒川恭行さん

冬場のエアコンによる電気代や灯油代が無くなり大正解だった。一方、薪作りには木材を調達し、チェーンソーで切り、斧で割り、それを薪棚に運び、一年以上よく乾燥させるなど手間と時間がかかるが、薪ストーブには炎を眺めるといった視覚的な温かさに家族中が癒され、寒くなるのが待ち遠しい」と荒川さんは語りました。

（足立梓記者）

「あかりの日」 ポスターで 松尾煌太君 最優秀賞

昨年十月二十一日の「あかりの日」記念日に全国小学生ポスターコンテストで、当時、生馬小学校六年生の松尾煌太君が最優秀賞を受賞しました。

図工の時間にあかりをテーマにポスターを描くよう先生に言われ、理科が好きな煌太君は図案がひらめいたそうです。

電球を男の子の顔に、中のヒーターを口に見立て、手に棒状の蛍光管を持ち、頭上に天使の様に丸形蛍光管を描き、周囲全体に黄色で光の濃淡をつけた簡素で分かりやすいポスターでした。

最優秀賞（日本一）と聞いて「うそだー」と思ったそうです。

「審査の評価」には、審査委員が圧倒的な評価で最優秀賞にしたと書いてありました。

「授賞式にはお母さんと二人で東京に行った。初めての東京へは



● 松尾煌太君と縮小版の記念の額



● 卒業記念で作ったオルゴールの箱に女の子に変えて描いた

飛行機で行き、ビルばかりだった。富士山は残念ながら見えなかった。

夜、スカイツリーに上りビックリ。自宅のある生馬は周りが田んぼで、この時間真っ暗だが、東京はビルばかりで昼のように明るかった」と煌太君は話しました。

東京は夜遅くまで多くの人があかりを使って仕事をしているのだと感じたそうで、あかりの大切さがわかったとも話しました。

（松尾和美記者）

あかりの日とは

照明関係四団体が「照明文化の向上により豊かな社会の創造とエネルギーの有効利用」を目指し定めた日。

市生活環境保全推進員の活動紹介「竹矢地区」

きれいな地区を保つことに努力



後藤康男 さん

チエックリストを作り内容を三段階に分け評価し、特記事項も付け、市に報告しています。

◎もう一つは、地域内の不法投棄の多い場所、六カ所を決めて粗大ごみパトロールを年四回実施、チエックリストを作り点検しています。以前は大型タイヤなどが投棄されており、松江市に引き取りしてもらいました。一度きれいにするとその後はあまり投棄されません。きれいなところには、ごみは捨てないことがわかりました。

竹矢地区は中海に面し大橋川と意宇川には生まれ、武内神社を中心にした田園地帯。一方、鉄工団地には多くの工場や六道湖東部浄化センターなど環境に関する施設が集中しています。交通も便利でJR東松江駅、高速道路の竹内ランプや国道九号が走っています。

二千七百六十八世帯、六千二百五十九人（二十九年四月現在）の竹矢地区は、二十二自治会からなっています。地域全体は広くありませんが、田んぼなどの農地・茶白山・工業団地・道路・住宅団地、そして二本の河川に中海と、不法投棄をされやすい場所が多い地域です。

四人の推進員を二組に分けて、地域を半分ずつ担当し、年間に二つの活動を実施しています。

以前、町内会長会でごみについてお願いしました。それに合わせて毎月竹矢公民館が発行している「竹矢公民館だより」に「生活環境保全推進員より」と題し、環境美化の記事を毎月掲載して三年になります。お蔭で徐々に環境が改善されたと思います。

「それでもまだ人通りの少ない田んぼ道では犬の散歩をしながらふんを始末しない人が多く、見かけたら注意しています。」と後藤康男代表は語りました。

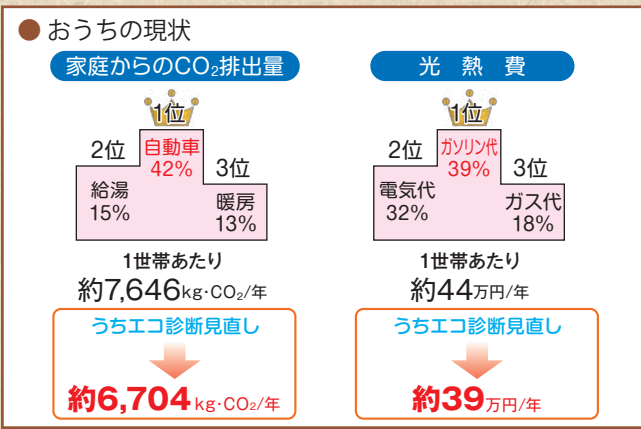
(折田昌弘記者)

「うちエコ診断」実施結果

ライフスタイルに合わせて効果的な選択を

公益財団法人しまね自然と環境財団では、平成二十七年より環境省から「うちエコ診断実施機関」の認定を受け、県内の一般家庭を対象に「うちエコ診断事業」を進めています。平成二十八年度のCO2の排出量、光熱費、省エネ対策について七十三人が「うちエコ診断」を受診しました。四月、実施報告が発表され、地域性やライフスタイルによる特徴がまとめられています。（左図）

CO2の排出量が多い分野について受診者の多くが選択した対策とは？（左図）



● ライフスタイル対策

自動車

- エコドライブ 節約 13,000円/年
発進時にやさしくアクセルを踏んでスタート、約10%燃費が向上
- 燃費のいい車に買替え 節約 53,000円/年
補助金制度有り
- カーエアコン 節約 9,500円/年
オンオフ・風量を適切に調整 約6%燃費が向上
- エコタイヤに交換 節約 2,600円/年
タイヤと地面の摩擦を減らしたタイヤ 約0.9km/L 燃費が向上

給湯器

- 給湯器を節約モードに設定 節約 3,400円/年
- 節水シャワーヘッドを使用 節約 10,300円/年

暖房

- 家族団らんで一部屋で過ごす 節約 9,200円/年

その他

- 冷蔵庫を省エネ型に買替え
- 蛍光灯をLEDへ変更

省エネ対策の効果は各家庭によって異なります。「うちエコ診断」はオーダーメイドの対策を提案することで、CO₂削減を応援しています。

※専門ソフトを用いて診断士が対面診断を行い、各家庭における対策を提案する

(安達善子記者)



●大学生に野外学習（講義「環境教育フィールド科学」）を行う松本教授：「街角の様々な建造物も大地からのめぐみの一部である」と説く。

美しい古都を歩きます。心なごむ風景や人のあたたかさに接します。季節ごとにつろいゆく街や自然の色合いが素敵に感じます。旅先や故郷のこうした景色には、その土地の自然や歴史によって育まれた地域固有の誇れる文化が築かれます。大事にしたい、大事にすべき、つまり、伝承が大切です。

文化、それになっていくのはそこで暮らす住民一人一人です。教え、教えられ、共に学ぶ中で、古き良きものを守り、また、時には新たな一面をそれに重ねていきます。重ねていくのは、赤ちゃんから老人まで、

全ての年代の人であり、全ての年代の人が協力しなくては文化の伝承は難しいと言えるでしょう。

私たちの暮らす大地には様々な恵みと災いの記憶があります。恵みとは、土地が育んだ地下水であったり、土地の地質が育んだ鉱物資源や石材であったり、土地の生態系が育んだ貴重な生物や生態系であったりします。また、それらが織りなす資源や景観に人の営みが加わり、伝統文化が生まれます。時には、神話や歴史上の様々な史実が重なり、それらを色濃く染めていきます。災いの記憶とは、水害や地震をはじめ様々な災害などをさします。私たちの暮らす全ての土地は、大地に支えられ、その恵みと災いの上になりたっています。

子どもの頃に聞いた懐かしい街の、心に残る音、かおり、そして風景が、それを学んだ地域、学校、家庭とともに思い出されます。人と人、人と自然がそれぞれに良い関係を築いていく事が大切です。うまくいかないことも多いのですが、それを乗り越える時こそ、良いもの、良い関係が育まれます。それは文化を育み素敵な街を未来につなげる、つまり持続可能な社会の構築となるのです。

新任記者紹介



島根大学 教育学部三回生 足立 梓

この度、新しく市民記者を務めることになりました。出身は鳥取県で、松江市には小さいころからよく訪れていました。

大学に入学してから自分が知らなかった松江市の魅力を知り、ステキな町だなと感じました。この自然豊かな松江市の環境について調べ、皆さんにお届けしたいと思っています。

よろしくお願ひします。

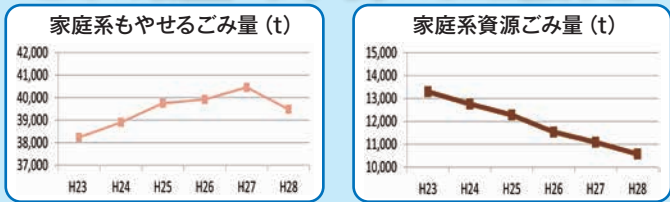


島根大学 生物資源科学部三回生 松井 萌

この度、新しく市民記者を務めることになりました。出身は愛知県で、趣味は登山です。

松江は、町がきれいで、自然も豊かであり、とても暮らしやすい環境だと思ひます。この環境を守り、さらに良くするために、身近な環境問題について皆さんにお届けしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

ごみの減量・リサイクルにご協力を!



- ・エコクリーン松江が稼働した平成23年度以降、家庭から排出されたもやせるごみ量は増加傾向、資源ごみ量は年々減少しています。
- ・もやせるごみ袋の中身を調査（H28年度）した結果、資源化可能なものが約34%も含まれていました。
- ・環境負荷の低減、資源の有効利用のため、ごみの減量とリサイクルにご協力をお願いします。【松江市環境保全課】

2017 松江市環境フェスティバル

環境問題について楽しみながら学べる場を提供します。

- とき 平成 29年 11月 5日(日)
- ところ くにびきメッセ (1F大展示場)

情報・意見をお寄せください

- 環境をテーマにした活動、意見
 - 取り上げてほしい企画
 - 我が家で工夫しているエコなポイント
 - 日頃、環境について思っていること
- などなど、皆さんからの情報をお待ちしています。

環境保全全部環境保全課

〒690-0826 松江市学園南一丁目 20番 43号
 TEL : 0852-55-5278 FAX : 0852-55-5497
 E-mail : k-hozen@city.matsue.lg.jp